

令和 7 年版埼玉県環境白書の刊行にあたって

令和 7 年の夏は、国内最高気温の記録が連日塗り替えられる異常な高温が続き、1898 年の統計開始以来「最も暑い夏」となりました。
こうした厳しい暑さが続くと、熱中症などの健康被害だけでなく、食料生産や生態系にも深刻な影響をもたらすおそれがあります。



世界経済フォーラムが公表している「今後 10 年間で起こり得る深刻度の高いグローバルリスク」ランキングでも、「異常気象」は最上位にあり、それに次ぐリスクとして「生物多様性の損失と生態系の崩壊」や「天然資源不足」などが位置付けられています。

これら 3 つのリスクを克服するため、世界共通で取り組むべきアクションが「カーボンニュートラル（脱炭素）」「ネイチャーポジティブ（自然再興）」「サーキュラーエコノミー（循環経済）」ですが、このたび、本県でネイチャーポジティブの画期的な成功事例が誕生しました。

世界的にも珍しい水生の食虫植物ムジナモは、開発や水環境の変化で数が減少し、本県においても野生絶滅状態にありましたが、羽生市のムジナモ保存会の皆様や羽生市、埼玉大学の連携による地道な保全活動の結果、本年 1 月、国内でも極めてまれな野生復帰を果たしました。これはまさに、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの象徴的事例といえます。

グローバルリスクの克服というと、遠い世界の話のように感じるかもしれませんが、実は一人一人が環境問題を自分ごととして捉え、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーにつながる行動に踏み出していただくことが大きな力になります。

今回の埼玉県環境白書では、環境問題に対する関心や理解を深めていただけるよう、ムジナモ野生復帰への道のりをはじめ、本県の環境の現状や環境関連施策の進捗を分かりやすくお伝えしています。この白書をきっかけに、一人でも多くの県民・事業者の皆様が環境問題の解決に向けたアクションに参画していただけることを期待しております。

令和 7 年 1 2 月

埼玉県知事 大野元裕